



東北地方太平洋沖地震発生、その初期対応

～震災発生から『被災者支援のつどい』開催まで～



2011年3月11日(金)

時間	宗派の動き	関連情報
14:46	東北地方太平洋沖地震発生	震源地:三陸沖 マグニチュード:7.9(発表当時。後にM9.0に修正)、宮城県北部で最大震度7を観測
15:00	第1回災害救援本部会議開催 ◎地震発生時、全国教務所長会が開催されていたが、急遽中止して、被害状況の把握のための情報収集を開始。	大津波・津波警報発表(14:49) 相馬<9.3m以上>、宮古<8.5m以上>、大船渡<8.0m以上>の津波を観測 気象庁が「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名(16:20)
17:00	第2回災害救援本部会議開催 ◎翌12日に予定されていた御遠忌オープニングイベント他の中止が決定される。 ◎本山職員の派遣が決定される。	
	<p>救援金箱の設置(阿弥陀堂、御影堂、参拝接待所、同朋会館、大谷祖廟)。</p> <p>北海道・東京・金沢・名古屋等、各教務所及び別院に保管されている災害救援物資の集約に努める。</p> 	
19:00	第3回災害救援本部会議開催 ◎職員派遣の方途について検討。 ◎御遠忌法要の厳修について協議。	原子力緊急事態宣言発令(16:36) 福島第一原子力発電所半径3km以内の住民に避難命令、半径3～10km圏内の住民に対し屋内待避指示が出される(21:23)
		

2011年3月12日(土)


時間	宗派の動き	関連情報
9:00	第4回災害救援本部会議開催 ◎災害救援金口座を開設を決定。	長野県北部で最大震度6強(3:59) 福島第一原発避難指示区域が半径10kmに拡大(5:44)
9:30	<p>第1次派遣職員(5名)が宗務所を出発。北陸道を経由し、金沢教区・三条教区等に備蓄されている物資を集約しながら陸路にて被災地へ向かう。</p> <p>派遣職員に宗務総長から訓示。</p> 	被災地周辺でガソリンの給油制限始まる。 
10:00	宗務総長声明(「今、いのちがあなたを生きている＝東北地方太平洋沖地震の被災者の皆様と共に＝」)	
11:00	災害救援本部より仙台教区全寺院へ電話で状況を確認。しかし、電話が通じない寺院が多数。	
16:50	<p>第5回災害救援本部会議開催</p> <p>◎災害救援本部規程に基づき山形教務所内に「現地救援連絡拠点」を設置することが決定。</p> <p>◎仙台教区に対し第1次見舞金の給付を決定。</p> <p>◎現地救援連絡拠点となる山形教務所へ本山職員の追加派遣と物資の搬送を決定。</p>	福島第一原発1号機付近で水素爆発(15:36) 福島第一原発避難指示区域が半径20kmに拡大(18:25) 南三陸町で1万人行方不明との報道。

2011年3月13日(日)

時間	宗派の動き	関連情報
10:00	第6回災害救援本部会議開催 ◎現地救援連絡拠点を山形教務所から仙台教務所へ移し、黒川紘紀災害救援本部長を仙台教務所へ派遣。それに伴い、「現地救援連絡拠点」を「現地災害救援本部」とする。	地震の規模を示すマグニチュードが9.0に修正される。
11:00	第2次派遣職員(3名)が宗務所を出発。 救援物資(水・毛布・タオル・ガソリン等)を3tトラックに積載して現地災害救援本部に向かう。 	
12:30	災害救援本部長他1名が、現地災害救援本部へ向け出発。空路にて新潟に入り、そこから陸路での本部入りを目指す。	次々と設置される避難所(南三陸町)
18:30	第1次派遣職員、現地災害救援本部となる仙台教務所に到着。	
23:00	災害救援本部長が現地災害救援本部に到着。 「現地災害救援本部」設置を宣言。 第2次派遣職員、救援物資とともに仙台教務所に到着(翌1:15)。	

[現地]…現地災害救援本部の動き
[本山]…災害救援本部(京都)の動き

2011年3月14日(月)

時間	宗派の動き	関連情報
8:30	[現地] 仙台教務所近隣の仙台市内寺院の被害状況確認及び災害見舞いを行い、水・タオル・ガスコンロ・ボンベ等を配布。 現地災害救援本部も深刻なガソリン不足に見舞われ、また、被災地域への立ち入りが制限されているため、遠隔地への救援物資の搬送が非常に難しい状態であった。 被害が甚大だと報道された地域と依然連絡がつかず。 現地災害救援本部から東北連区宗会議員・教区会正副議長・教区門徒会長に情報収集を要請。 [本山] 災害救援本部から、仙台の近隣教区に対し、ガソリンと携行缶の確保を指示。	計画停電の発表(政府・東京電力)。
11:01	[現地] 爆発事故発生の報道を受け、仙台市内を巡回中の職員に対し、建物内に避難するよう災害救援本部から指示。停電により情報が途絶え、現地では爆発事故の発生さえ把握できない中での活動であった。	福島第一原発3号機建屋で水素爆発(11:01)
13:00	[現地] 現地災害救援本部会議開催 福島第一原発1・3号機の爆発事故を受け、仙台教務所より北方に限定して各寺院巡回を行うことが協議される。	
16:00	[本山] 第7回災害救援本部会議開催(拡大) 御遠忌法要内容の変更について、日中・速夜法要の後、引き続き「東北地方太平洋沖地震被災物故者追悼勤行」を勤めることが決定。	家族や友人の安否をたずねる「尋ね人掲示板」
16:20	[本山] 食料・生理用品等の救援物資を積載した10tトラックが宗務所を出発。山形教務所経由で現地災害救援本部を目指す。	
19:20	[現地] 災害救援本部長より仙台教務所長に見舞金を手交。	福島第一原発2号機燃料棒全露出との報道。
21:25	[本山] 災害救援本部会議開催(緊急招集) 福島第一原発事故を踏まえ、現地災害救援本部職員の宮城県・岩手県への派遣を決定。	
23:00	[現地] 災害救援本部長、派遣職員等が、未だ連絡が通じず、大きな被害が報道された気仙組(陸前高田市並びに大船渡市等)をはじめとする被災寺院に向け、トラック1台、乗用車2台にて仙台教務所を出発。	

2011年3月15日(火)

時間	宗派の動き	関連情報
8:00	[現地] ガソリンの消費を少しでも抑えるため、トラックに救援物資を積載して中継地点となる寺院に移動し、物資を乗用車に積み替え、2班に分かれて被災寺院を巡回。被災地を襲った被害の甚大さが明らかとなる。	福島第一原発2号機 爆発音・サブプレッションプール欠損。 福島第一原発4号機で火災発生(9:38)
15:30	[本山] ガソリンや食料、毛布、生理用品等の救援物資を積載した2tトラックが宗務所を出発。	福島第一原発から半径20~30km圏内の住民に対し、屋内待避指示が出される(11:00) 福島第一原発4号機の火災、全鎮火(11:00)
16:00	内局会議にて、先行きが全く見えない激甚災害の現実を厳粛に受け止め、現時点においては宗門挙げて災害救援活動に全力で取り組むべきとの判断から、「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌第1期法要(3月19日~28日)の中止と、「被災者支援のつどい」の開催を決定。	東京電力にて初の計画停電実施。

2011年3月16日(水)

時間	宗派の動き	関連情報
9:30	[本山] 第3次派遣職員(4名)が宗務所を出発。	福島第一原発4号機で火災発生(5:45) 福島第一原発3号機から、白い湯気のような煙が発生(8:30)
10:00	[現地] 山形教務所に職員が出向き、宗務所から山形教務所に搬入した救援物資を現地災害救援本部に移送。 [現地] 現地災害救援本部会議開催 17日からの活動計画について検討協議。	


2011年3月17日(木)

時間	宗派の動き	関連情報
	[本山] 災害救援本部において、別院等宗派諸施設における被災者の受け入れ態勢の構築開始。 [現地] トラック・乗用車計7台に別れ、盛岡組18カ寺、花巻組20カ寺、仙台組6カ寺、仙南組6カ寺の被害状況及び寺族・門徒の安否確認を行う(~18日)。	福島第一原発3号機に自衛隊ヘリが放水開始(9:48)

2011年3月18日(金)

時間	宗派の動き	関連情報
10:05	[本山] 第4次派遣職員(4名)が宗務所を出発。救援物資(食料・毛布等)を2tトラックに積載し、乗用車と分乗して現地救援本部に向かう。	
15:00	[本山] 参与会・常務会開催 災害見舞金、救援物資購入、職員派遣等に対応するため、合計1億8千万円の緊急支出について議決。	

2011年3月19日(土)

時間	宗派の動き	
	宗祖御遠忌第1期法要を中止し、一人ひとりが被災地に思いを馳せ、悲しみを共にすることを願い、「東北地方太平洋沖地震災害 被災者支援のつどい」を開催(~3/28まで)。	

現地復興支援センター開設初期

2011年4月、東北地方は例年以上の厳しい寒さに見舞われました。

そんな中、全国のご寺院・ご門徒の有志による被災地支援活動が本格化しました。

この震災により、真宗大谷派の2つのご寺院が、津波により大きな被害を受けました。

4月に仙台教務所に開設された「現地復興支援センター」の初めての仕事は、これらのご寺院の役に少しでも立ちたいという方々に対するお手伝いでした。

【岩手県陸前高田市・気仙組 本稱寺】

4月、地元気仙組をはじめ、仙台教区有志の方々、近隣教区の奥羽、山形、東京、三条の方々、そして、高岡、能登教区の方々もかけつけ、津波に流された本稱寺のご本尊や仏具を捜索しました。

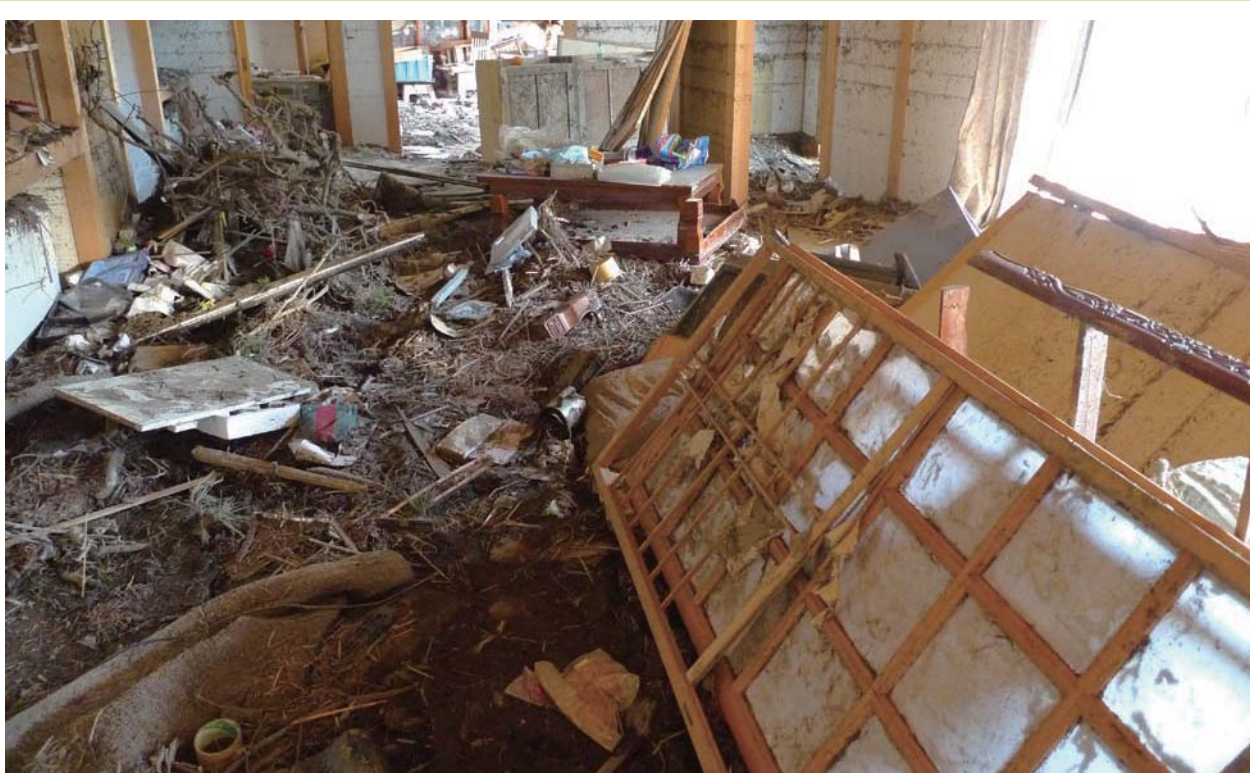


捜索の結果、梵鐘が見つかる



【宮城県仙台市若林区・仙台組 海楽寺】

4月、地元宮城県の仙台組・仙南組の住職・坊守・ご門徒の方々が、片付け作業にかけつけました。庫裏にころうじて残された家具や書籍などを泥の中から回収。



津波に押し流された町に雪が舞う(仙台市若林区・3月)



海楽寺のすぐそばで、風に吹かれながら大地に根をおろした、小さな花を見つけました

各地での炊き出しボランティア

震災発生から今日まで、全国からさまざまな方々が様々な思いで、東北地方に復興のお手伝いに来てくれました。現地復興支援センターがお手伝いした人だけでなく、もっと多くの方が、東北地方のどこかで活動していることでしょう。

みんなそれぞれ思いは違えど、共通して流れる願い…

悲しみをともに分け合い、そしてともに笑顔になること!

東北地方各地で行われた炊き出しの様子をご紹介します。中には、地元の名物料理もありました!

【岩手県陸前高田市】



避難所になった陸前高田市の正徳寺での炊き出し



東京教区自慢の中華丼です



はるばる熊本から…
太平燕という
郷土料理を
作ってくれました

【岩手県大船渡市】

大船渡市崎浜の正源寺で行なわれたソフトテニス部の打ち上げに参加しました。毎年会場にしてきた地域の集会所が流されてしまったそうです。

東京、名古屋、長崎教区の方々の合同チーム。

メニューは皿うどん・焼き鳥・いなり寿司・バナナ春巻、そして綿菓子とバラエティに富んだものとなりました。



長崎名物・皿うどん!

【宮城県東松島市】

東松島市小野市民センターで、小松教区による小松塩焼きそば。本職の料理人さんが800食を見事に調理してくれました。さすがプロ、うまい！この日はさらに、岐阜教区や仙台仏青なども参加して無料バザーも。



【宮城県東女川町】



餅つき

念珠つくりと盛りだくさんの内容にみんな大喜びでした



宮城県女川町で、高山教区33名が炊き出しご当地名物・五平餅と豚ちゃん・とりちゃん

【福島県会津若松市】

会津若松市の仮設住宅には、福島第一原発事故により避難を余儀なくされた、大熊町の方々がたくさんいらっしゃいます。



なんと本場インドカレーとタンドリーチキンの炊き出し
東京、岐阜教区です



いろいろなボランティアがありました!

●倒れたお墓を元どおり

地震で倒れたお墓を元どおりに戻す岐阜教区のボランティア。
重いけどみんなで頑張ります。



●懐かしの紙芝居

宮城県亘理町の避難所でのひとコマ。
避難所の担当の方から、小学生が100人ほど避難しているため、
子どもが楽しめるボランティアを、との要請。三条教区の方の昔懐かしい紙芝居に子どもたちは興味津々です。



こちらは高山教区。宮城県女川町の小学校で、中村久子さんの生涯を紙芝居ふう



●足湯でリラックス

何をしているところかわかりますか？
これは足湯ボランティア。温かいお湯の中で足や手を揉みほぐすことで、緊張が続く心と体をリラックスする効果があります。



手足をマッサージするうちに、
思わぬ言葉を聞くことも…

「もう田舎には
帰れないなあ…」

原発事故によりおうちに帰れない方が多いこの避難所では、あちこちでこんな言葉が聞こえてきました。
本当に悲しく、そして…



●色とりどりの腕輪念珠

もともと、地元仙台仏青が避難所支援の一環としてはじめたもの。

震災当初は避難所で「腕輪の数珠をつくってみませんかあ〜」と呼びかけても、なかなか応答していただけませんでした。色とりどりのビーズの珠を見ると、子どもたちはすぐにたくさん集まって来てくれました。

けれども、意外にもおじいちゃん、おばあちゃんにも大好評！ 時には念珠をつくりながら震災のときのお話をうかがいます。「息子と孫が津波につれていかれちゃってね…、この歳で何もかもなくしてしまったあ…」悲しみが念珠にしみ込みます。



各地の避難所や仮設住宅では、ビーズでつくる腕輪念珠が大人気！

上手にできた、ピース！

「立ち上がれ自分!」地元仙台仏青の活動



地元仙台仏青は、震災発生当初からいち早く支援活動を行ってきました。
特に、震災でガス・水道が不通の地域に出向いてお風呂を設置する活動は、地元の方々に大好評!
ドラム缶風呂から始まったこの支援も、薪で沸かすお風呂にバージョンアップです。



「BOP」とは、仏青・お風呂・プロジェクトの略称



お風呂準備中。水道の回復が遅れた場所では、バケツリレーで水を運びました



お風呂まだかなあ



おじいちゃんと一緒に。BOPの活動は仙台仏青以外にも広がり、これは奥羽・三重・京都教区が設置したお風呂です



暖まってお菓子ももらって大満足

願いよ届け! 救援物資

全国から多くの救援物資が届けられました。
本当にありがとうございます。



たくさんの物資を本山にお寄せいただきました



宗務所ロビーに溢れんばかりの物資



リレーでトラックへ



送っていただいた物資は、仙台教務所に一時保管し、皆さんにお届けしています



京都から被災地へ



被災地で特に喜ばれるお米
お寄せいただいたお米は5キロに
小分けしてお配りしています



山田町のバザーにて無料配布



あっという間になくなりました



東松島市での無料バザー風景

関係学校ボランティア



関係学校からもたくさん
ボランティアに来ていただきました。

【大谷大学】

大谷大学では学生を対象にボランティアを募集し、これまで24名のチームで5回にわたって被災地で活動をしています。「テレビで見ているのとは全く違っていました」という声が多く聞こえました



石巻市ボランティアセンターをととしての活動
主に半壊家屋の片付け作業です



ヘドロで埋まってしまって排水がままならない側溝の掃除



タイからの留学生。日本語もばっちり、大谷大学のこともご存じでした

大谷大学では、その他
「泥まみれになった写真の洗浄ボランティア」等、
一風変わったボランティアにも
参加しています



芋煮会場はこちら



避難所でお茶とおたべを準備



名古屋音大ガムラングループの演奏に合わせて踊ってます

【函館大谷短期大学】

山田町で4日間にわたる活動です。
宿泊は岩手真宗会館でお世話になりました。



【九州大谷短期大学】

石巻市名振にて。
被災された漁師さんの漁具用倉庫を、東京の棟梁と
一緒にボランティアで作っちゃいました。



【大谷大学職員】

大谷大学の職員の方も、
友達を誘って参加です



お楽しみ会

山田町営保育園の「お楽しみ会」にお手伝いとして参加してきました。

園児たちの太鼓演奏やビンゴ大会で楽しい時間を過ごしたあと、園に隣接する寺院境内で奥羽教区の方々が、シチュー、かき氷、綿菓子、喫茶、そして無料バザーを行いました。

子どもたちは大喜び。大人もみんな子どもに帰ったような一日でした。

写真は、大盛況の様子を写したのですが、振り返ると、そこには津波が足下まできた町の風景があります。

